

徳島県立総合看護学校
令和 7 年度第 1 回 学校運営委員会 議事録

1 日時

令和 7 年 8 月 26 日（火） 午後 0 時 50 分～午後 2 時 20 分

2 場所

徳島県立総合看護学校 会議室

3 出席者

(1) 委員

頭師委員長、庄野委員、葉久委員、三宅委員、岩佐委員

(2) 委員以外

・委託業務管理責任者（代理出席）

森 委託業務管理責任者代理（徳島県医師会副会長）

・オブザーバー

多田課長補佐（徳島県医療政策課）、中村事務局長（徳島県医師会）

・事務局（徳島県立総合看護学校）

岡山副校長兼事務長、藍原副校長、四宮第一看護学科長

・補助者

（徳島県医師会事務局）

大西次長、田上課長補佐

（徳島県立総合看護学校）

総務担当 篠塚課長補佐、矢口係長、遠藤事務主任

教務担当 小川第二看護学科長、高橋准看護学科長、水田第一看護学科教務主任

4 次第

(1) 学校長あいさつ （略）

(2) 議事

ア 資料説明（学校運営状況等）

イ 学校運営に関する協議

5 議事

(1) 資料説明

岡山副校長兼事務長から、学校運営状況等について資料に基づき説明。

(2) 質疑・意見等（要旨）

・三宅委員

令和 6 年度卒業生の進路状況に関して、第一看護学科で県内就職者 28 名、県外就職者 12 名というのは、前年度と比較してどうなのか伺いたい。

・頭師委員長

第一看護学科の令和 5 年度卒業生は、就職者 34 名。うち、県内就職者 22 名、県外就職者 12 名であった。就職者のうち県外の割合で言うと、令和 5 年度 35.3%、令和 6 年度 30%であり、令和 6 年度は減少している。

- ・ 三宅委員
兵庫県などでの就職が多いが、地元に戻られる方がいらっしゃるということか。
- ・ 四宮第一看護学科長
徳島県出身者が県外で就職している。
- ・ 三宅委員
県内に残らない理由を把握されているか。理由が分かれば、改善していくことで一人でも多く県内に残っていただけるのではないかと思います。
- ・ 四宮第一看護学科長
学生に直接聞いたところでは、県外に行きたい、県外で働いてみたいという思いで就職先を選んでいる。
- ・ 頭師委員長
ここ数年の傾向として、兵庫県など関西方面での就職が多い。アクセスが良いということもあるし、生活を考えた上でのことだろうと思う。
- ・ 葉久委員
県外就職者は県修学資金の貸与を受けていないのか。
- ・ 頭師委員長
令和 6 年度卒業生において、県修学資金貸与者で県外に就職した学生はいない。
- ・ 岩佐委員
第一看護学科で普通科校以外から入学した学生がいることに関して、専門学校の授業は高校での学習内容を前提に組み立てられることから、高校で学習する科目が異なると入学後に補習が必要だったりするのではないかと懸念するが、実際はいかがか。
- ・ 四宮第一看護学科長
今のところ補習などは行わず授業に付いてこられている。今後進級するにつれ難しくなるかもしれないが、本人の頑張りに期待している。
- ・ 岡山副校長兼事務長
商業高校を訪問した際、看護学校を目指す生徒には普通科高校で学習している内容を集中的に補習するなど、プラスアルファの学習を行っているということを進路担当教諭から聞いた。
- ・ 岩佐委員
社会人入試で学科試験を免除あるいは一部免除しているが、入学後の学習に付いてこられる学力があるかということを、どのように判定されているのか伺いたい。
- ・ 頭師委員長
第一看護学科では令和 6 年度実施の入試から社会人枠を設けており、英語又は数学のいずれか 1 科目、小論文及び面接を試験科目としている。

今年度実施の入試から新設する准看護学科の社会人枠では、学科を免除し、小論文と面接のみとしている。高校卒業後３年以上経過していることを受験資格としており、高校までの学力は担保されるであろうことに加えて、これまでの経歴やエントリーシートの内容から判定していく。実際のところは、入学後の補習等で対応することになると考えている。

・ 庄野委員

休学者について、令和６年度同時期に８名であったところ、今年度は３名に減少している。全国的に３年間で卒業できる割合が９割程度と聞いている。１割程度が留年したり退学したりする中で、その前段階に休学があり、岐路になるのだろう。先生方は継続して熱心に関わられていると思うが、何か特別に始められた取組などがあれば伺いたい。

・ 藍原副校長

特別な取組を始めたということはないが、准看護学科に関しては、入学者数の減少傾向により、全体の学生数が減っていることが影響していると考えられる。また、休退学者が多いことの対策として、協調性をみるための集団面接を入試科目に加えたところ、休退学者数が減少した経緯がある。学生数が少なくなっていることを受けて、今後は個別指導の強化が必要であると考えている。

・ 庄野委員

教職員数について、令和６年度５５名から今年度４５名と１０名減少している。この人数で効率化を図りながら運営できていると理解してよいか。

・ 頭師委員長

県職員と医師会職員では少し異なるが、中途・定年退職者もしくは再任用期間満了者の補充ができなかった面がある。学生数に応じた課程運営には支障がないものの、決して楽な状況ではなく、教職員の補充に努めているところである。

・ 庄野委員

看護職やその他職種も６０歳定年ではなく、高齢者がしっかり働く時代になっており、病院や施設で定年退職後に再雇用として職場に残ったり、他の施設で働いたりしている。学校でも人材確保が難しくなっていると感じる。

・ 頭師委員長

再雇用も含めて、人材確保に努力していきたい。

・ 葉久委員

オープンキャンパスに１９０名が参加したということだが、参加者のリストを作って、何名が入学したかなどを把握されているのか伺いたい。

・ 岡山副校長兼事務長

オープンキャンパスに参加して本校に入学した学生の把握はしているが、人数はこの場に持ち合わせていない。

・葉久委員

当院では、説明会等を開催する都度、参加者のリストを作成している。採否に影響することはないが、マッチングの際、その方が何に参加されたのかを把握して参考になっている。また、アンケートでメールアドレスを任意提供いただいた方には、こちらから情報発信をしている。

・庄野委員

せっかく参加してくださった方と、出願や入学まで繋がることができれば良いと思う。

・森委託業務管理責任者代理

個別相談数は昨年より増えたと聞いている。

・藍原副校長

准看護学科において令和5年度の進学率が5割程度と低い実績であったため、今年度進学指導を強化したところ、第二看護学科の個別相談数が増えた。

・三宅委員

学年に関わらず、オープンキャンパス参加者の意見を個別に残しておくことが大切だと思う。受験する人もいればしない人もいるが、解析すればどういう理由でこの学校を志望しているのか見えてくる。

県立中央病院も同様と思うが、当院でも医師のマッチングをする際に、卒業学年より下の学年の頃から見学に来る人もいる。その際に得た意見を全て残しておく、改善したり繋げていったりするための資料になる。辛辣な意見もあるかもしれないが、そういう意見の方が大切だと考えている。

オープンキャンパスの参加人数だけを実績にするのではなく、高校2年生でも1年生でも得られた意見をしっかり残しておくことが大切であり、それは必ずされた方が良い。会議資料として、アンケート結果を出してもらえれば分かりやすいと思う。

また、県外に出て行ってしまう理由が、本当に県外に行きたいだけなのか、県内に魅力がないのか、そういうところを聞くことができれば有り難い。

・頭師委員長

オープンキャンパスではアンケートを行っているが、項目を見直すなどして、後々の分析ができるような形にしていきたい。

・三宅委員

以前の会議で県修学資金を充実していきたいという話があったかと思うが、その後の状況はどうか伺いたい。

・多田課長補佐

昨年度に比べて大幅に増やしている。昨年度までは学校ごとに枠を設定していたが、今年度は希望者に行き渡るように予算を確保して希望調査を行ったところ、想定以上の希望者があり、再度予算の調整をしている状況である。極力希望者全員が貸与を受けることができるよう最終調整を行っており、予算の確保が出来次第、手続きを進めていきたい。

・ 三宅委員

枠が広がれば修学しやすくなるので、是非よろしく願いしたい。

・ 庄野委員

県修学資金の返還免除施設は、地域に関係なく県内であれば対象となるのか。

・ 多田課長補佐

地域に関係なく、県内の返還免除施設で看護師として引き続き 5 年間勤務された場合は返還免除となる。病院や診療所は当然対象施設だが、介護老人福祉施設など対象外の施設もある。

・ 葉久委員

お金が全てではないが、インセンティブになると思う。県が予算を付けてくれるのは有り難い。

・ 多田課長補佐

今年度新たな施策として、医師・看護職員移住支援金制度を創設した。県外で 5 年以上在住していた医師・看護師で、県内に移住し県内公立又は公的医療機関に就業された方を対象に、単身移住の場合 90 万円、世帯移住の場合 150 万円の支援金を支給する制度である。県外在住者に周知するため、移住推進等を所管する県関係部署とも連携し、主に県外で広報を行っている。

・ 岩佐委員

帰省した際に親御さんや親戚の方から伝えてもらえることを考えれば、県内で周知することも有効ではないか。

・ 葉久委員

駅やバス停、空港などにチラシを置いてみてはどうか。

・ 多田課長補佐

御意見を参考に、広報先を改めて検討したい。

・ 三宅委員

過疎地では看護職員が足りなくて困っている状況である。以前には出身地である中山間地域の病院に就職を希望する学生がいたかと思うが、今年度そのような学生はいえるのか伺いたい。

・ 頭師委員長

今年度はそのような学生はいない。

・ 庄野委員

第一看護学科の令和 6 年度卒業生で美容系に就職した学生がいることに関して、全国的にも看護師として美容系へ就職を希望する人が増えていると聞いているが、学校でもそのような傾向があるのか伺いたい。

・ 頭師委員長

少数ではあるが、そういう流れもある。

- ・ 森委託業務管理責任者代理
有料職業紹介所の青田買いにより、地方の人材が都会へ流出するという状況も懸念されるところである。
- ・ 三宅委員
美容系の看護師は待遇が良いのだろうか。
- ・ 庄野委員
待遇が良いという話は聞いている。きれいなイメージから入っていくのかもしれない。長期に働くつもりはなく、数年間美容系で働くということが多いようである。
- ・ 岩佐委員
夜勤が少ないことや、自身の美容への興味もあるのだろうと思う。
- ・ 葉久委員
現在、医師の業界、特に外科では大きな問題になっているが、美容系の待遇が良いということが分かれば、将来看護師でも非常に大きな問題になるのかもしれない。
- ・ 庄野委員
学生へのハラスメント対策に関して、一昨年、厚生労働省の「看護師等の確保を促進するための措置に関する基本的な指針」の中でも、看護師等養成所におけるハラスメント対策の重要性が示されている。学校としてどのような取組をされているのか伺いたい。
- ・ 頭師委員長
主な取組としては、令和4年度から相談窓口を設置し、周知に努めている。他に、学生意見箱を設置し、ハラスメントに限らず様々な意見を受け付けている。また、毎年教職員の職場研修を実施している。
- ・ 庄野委員
学生意見箱は無記名か。
- ・ 岡山副校長兼事務長
無記名でも受け付けている。投稿者本人へ直接回答を希望する場合に備えて、記名できる様式を用いている。
- ・ 庄野委員
事実かどうかに関わらず、ネガティブな情報は拡がるのが早い。平時からしっかり取り組んでいただきたいと思います。
- ・ 三宅委員
以前の会議で、実習先施設に対する学生の意見をフィードバックするようお願いしたが、その後の状況を伺いたい。

・頭師委員長

昨年度後半に実施したアンケート結果について、各実習先施設へフィードバックさせていただいた。

・三宅委員

満足な点もあれば、不満な点もたくさんあると思う。不満を把握しておかなければ有意義な実習ができないので、必ずフィードバックをお願いしたい。

・葉久委員

当院としても是非お願いしたい。

・頭師委員長

今年度も引き続きフィードバックさせていただきたいと考えている。

・三宅委員

県全体で医師・看護師を一人でも多く残さなければならない。そのためには各施設が協力して、若者に県内で就職してもらえる環境を作っていくよう考えることが重要だと思う。

学校として一番困っていることを伺いたい。

・頭師委員長

大きな課題として、学生数及び教員数の確保ということを申し上げたが、質の面などについて各学科からお答えしたい。

・四宮第一看護学科長

全体的に学生の基礎学力の低下が見られる。レポートの書き方など、基本的な指導を丁寧に行っていく必要性を感じている。ガイドライン上の教職員数は満たしているが、実際は足りていない。入学前に全員に課題を与えているが、入学後3年間で国家試験合格に向けてどのように学習に取り組んでいくのかというところが、毎年大きな課題だと感じている。

・藍原副校長

第二、准看護学科においては、学生数が減少していることから、以前の水準では入学できない学力レベルの学生が入学してきている現状がある。このため、学力の補充が大きな課題であり、昨年度から元中学校数学教諭に依頼して補習を行うなどの学習支援を行っている。同時に、教職員の確保や教育の質を考えていく必要性を感じている。

・岡山副校長兼事務長

高校訪問の際にも、高校の段階から学力低下傾向があるという話を聞いている。

・葉久委員

ChatGPTなどの生成AIを使ってレポートを書くこともあるのではないか。

・藍原副校長

その可能性を踏まえながら学生のレポートを読んでいる。

- ・ 岩佐委員

文部科学省からガイドラインが出ていると思うが、生成 AI に関して、使用を禁止するのではなく、学習に上手く使える能力を身につけることが示されている。上手く対話すれば家庭教師のように使うことができ、そういう使い方も習得できる。生成 AI を使ったとしても、それが本人の学習になって、対話の中で答えが返ってくるのであれば良いと思う。単に投げかけたことの答えを丸写ししているのか、対話しながら導き出した答えなのか、見れば分かるものである。AI を活用して効率化を図ろうという時代なので、使うことが前提ではないか。

- ・ 藍原副校長

教職員も AI について学ばなければならないと感じている。

6 次回開催

- ・ 岡山副校長兼事務長

次回開催は来年 1 月下旬から 2 月頃を予定している。

以上